

## 令和 7 年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査結果について

- 1 結果公表 令和 7 年 12 月 22 日（月） 午前 11 時 00 分～  
※令和 7 年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査結果報告会

### 2 調査目的等

#### （1）調査目的

陸奥湾のホタテガイ垂下養殖の実態を把握し、へい死対策及び生産計画等の指針とする。

#### （2）調査主体

陸奥湾内各漁業協同組合（協力：むつ湾漁業振興会、関係市町村、水産総合研究所、県）

#### （3）調査期間及び対象

##### ①現地調査（成育状況等）

ア 調査期間：令和 7 年 11 月 10 日～20 日

イ 対象貝：新貝（令和 6 年産貝）及び稚貝（令和 7 年産貝）

ウ 対象者：10 漁協の 45 名（全養殖漁業者の 5% 相当）

##### ②間取り調査（保有枚数等）

ア 基準日：令和 7 年 10 月 1 日

イ 対象貝：成貝（令和 5 年産貝）、新貝及び稚貝

ウ 対象者：10 漁協の全養殖漁業者（826 経営体）

### 3 陸奥湾全体の状況

#### （1）成育状況

区 分		へい死率	異常貝率	殻 長	全 重 量	軟体部重量
新貝 (R6 産貝)	R7	93.3%	6.2%	7.7cm	53.6g	13.4g
	平年	16.0%	7.9%	8.6cm	74.5g	25.6g
稚貝（未分散） (R7 産貝)	R7	80.4%	2.7%	1.6cm	0.6g	—
	平年	13.4%	3.0%	2.5cm	1.9g	—

※平年：S60～R6 平均

#### （2）保有枚数

##### ①調査翌年の成貝（親貝）

区 分	保有枚数①	確保の目安②	割合①/②	備 考
新貝 (R6 産貝) 成貝 (R5 産貝)	677 万枚	1 億 4,000 万枚	4.8%	

##### ②調査翌年の半成貝・新貝

区 分	保有枚数①	過去 10 年平均②	割合①/②	備 考
稚貝 (R7 産貝)	3 億 193 万枚	14 億 2,247 万枚	21.2%	

#### （3）概 況

##### ①親貝

へい死率は平年を大きく上回り、異常貝率は平年並み。殻長、全重量及び軟体部重量は平年を下回った。

##### ②未分散稚貝

へい死率は平年を大きく上回り、異常貝率は平年並み。殻長及び全重量は平年を下回った。

### ③保有枚数

親貝となる成貝と新貝の保有枚数は 677 万枚で、目安となる 1 億 4,000 万枚の 4.8%。来年の半成貝や新貝となる稚貝の保有枚数は 3 億 193 万枚で過去 10 年平均の 21.2%となった。

### (4) 高水温の影響等

- 異常高水温の影響により大量へい死が起こった平成 22 年、令和 5 年、令和 6 年と比較すると、新貝及び未分散稚貝のへい死率はいずれの年も上回り、昭和 60 年以降最も高かった。
- 新貝の軟体部重量及び未分散稚貝の全重量はいずれの年も下回り、昭和 60 年以降最も低かった。
- このような大量へい死と成長不良の要因は、今年の高水温期間が過去最長であったことが挙げられる。

## 4 青森市の状況

### (1) へい死率

#### ①新貝

新貝のへい死率は、青森市漁協が 94.9%、後潟漁協が 95.3% となり、令和 5 年及び令和 6 年調査と比較して高くなった。

#### <新貝>※調査前年産

(単位：%)

項 目	R7 調査	R6 調査	参 考		
			R5 調査	R4 調査	R3 調査
青森市漁協	94.9	24.1	83.4	18.1	—
後潟漁協	95.3	21.7	26.0	7.7	19.0

#### ②稚貝（未分散）

稚貝（未分散）のへい死率は、青森市漁協が 98.1%、後潟漁協が 95.5% となり、令和 5 年及び令和 6 年調査と比較して高くなった。

#### <稚貝（未分散）>※調査年産

(単位：%)

項 目	R7 調査	R6 調査	参 考		
			R5 調査	R4 調査	R3 調査
青森市漁協	98.1	70.6	90.3	3.3	14.4
後潟漁協	95.5	28.7	41.3	2.3	5.2

### <地区別へい死率>

(単位：%)

項 目	新貝（R6 年産貝）			稚貝（R7 年産貝）※分散済			稚貝（R7 年産貝）※未分散		
	R7	R6	R7-R6	R7	R6	R7-R6	R7	R6	R7-R6
後潟	95.3	21.7	73.6	0.0	0	0.0	95.5	28.7	66.8
奥内	100.0	23.1	76.9	—	0	—	97.9	56.1	41.8
油川	—	—	—	—	0	—	100.0	86.9	13.1
青森	—	—	—	—	0	—	100.0	99.5	0.5
造道	—	—	—	—	0	—	100.0	84.2	15.8
原別	—	34.4	—	—	0	—	100.0	88.4	11.6
野内	89.7	18.8	70.9	—	0	—	97.1	78.1	19.0
久栗坂	—	23.0	—	—	0	—	92.6	43.0	49.6

※「—」は計測データなしを示す。

## (2) 保有枚数

### ① 成貝・新貝

令和 7 年 10 月 1 日時点の成貝・新貝の保有枚数は、青森市漁協が 12 万枚、後潟漁協が 8 万枚となり、令和 6 年調査との比較でそれぞれ 193 万枚、120 万枚減少した。

市全体としては、成貝・新貝の保有枚数は 20 万枚となり、令和 6 年調査時の 333 万枚との比較では 313 万枚減少した。

＜成貝・新貝＞※調査前年以前産

(単位：万枚)

項 目	R7 調査	R6 調査	R7-R6	参 考		
				R5 調査	R4 調査	R3 調査
青森市漁協	12	205	△193	327	646	97
後潟漁協	8	128	△120	126	222	93
青森市計	20	333	△313	453	868	190

※保有枚数平年値 (H27-R06 の 10 年平均) : 406 万枚

### ② 稚貝

令和 7 年 10 月 1 日時点の稚貝の保有枚数は、青森市漁協が 3,598 万枚、後潟漁協が 1,761 万枚となり、令和 6 年調査との比較では、青森市漁協は 2,309 万枚、後潟漁協は 7,723 万枚減少した。

市全体としては、稚貝の保有枚数は 5,359 万枚となり、令和 6 年調査時の 1 億 5,391 万枚との比較では、1 億 32 万枚減少した。

＜稚貝＞※調査年産

(単位：万枚)

項 目	R7 調査	R6 調査	R7-R6	参 考		
				R5 調査	R4 調査	R3 調査
青森市漁協	3,598	5,907	△2,309	4,386	5,866	30,850
後潟漁協	1,761	9,484	△7,723	7,800	2,046	8,080
青森市計	5,359	15,391	△10,032	12,186	7,912	38,930

※保有枚数平年値 (H27-R06 の 10 年平均) : 30,389 万枚

## 5 今後の指導内容

○親貝となる成貝及び新貝の保有枚数が、目安となる枚数を大きく下回っているため、産卵前の出荷は控え、今後も継続してより一層の親貝確保に努めること。

○新貝、稚貝ともに冬季波浪等のへい死を防ぐため、適切な玉付けにより養殖施設の安定化に努めること。